

最優秀賞

一般建築物の部

建築主：株式会社京葉銀行
設計：株式会社日建設
施工：株式会社竹中工務店 東関東支店
所在地：千葉市中央区千葉港5-4-5

時を超えて持続しうる、地域に開いた建築文化の姿

京葉銀行千葉みなと本部



信頼感と親しみやすさを併せ持つ地域に根差した銀行に相応しい新しい顔を創出

(撮影/(株)エスエス 島尾 望)

いわゆる「地銀」の本店が地域に開く、それが美しく顕在化された出色の建築作品である。頻発しうる自然災害に対して経済を支える企業として備えること、そして顧客のみならず立地する地域に貢献することは、近年BCP（業務継続計画）として広く普及してきた。しかし、それが美と技を伴う「建築文化」に昇華された例はまだ少ない。「ワークプレイス」であるオフィスビルの一義的な機能に関して、これまで膨大に蓄積してきた組織設計事務所の実力が遺憾なく発揮され、単なる新規性を狙った技術の羅列ではない「インテグレーション」とも言うべき域に達している。しかも、それが事務棟・設備棟ともに深い庇の重層が陰翳を生み出す彫りの深いファサードの構成を生んだ。そして、平滑なガラス面で覆われたカーテンウォールの既視感を凌駕して、構造と意匠が一体化され凛としたたたずまいを見せている。

計画・設計・建設の過程では、建て主と設計者間で十分なやり

とりがあったに違いない。元来、銀行として「周囲に開く」ことは容易なことではない。「セキュリティ」と「地域貢献」という、相反しがちな目的に「BCP」の課題も加わり、それらをデザインという統合化の作業を通して様々な試行錯誤があったはずである。例えば免震構造が事務棟で基礎免震、設備棟で柱頭免震に切り替わるなど、津波対策を含めて複雑な構成となっているが、その解がPC版を多用した美しい施工技術とともに、大変精緻な仕上がりを見せていることも特筆すべきである。以上から審査員の総意として最優秀賞が授与された。

(岩村 和夫)



建築空間と融合するアートワークを設けた開放的なエントランスホール

(撮影/(株)エスエス 島尾 望)



交差点に面して設けた地域の方々との交流の場「コミュニティガーデン」

(撮影/(株)エスエス 島尾 望)